

がん教育教室

1月15日(月)2年生を対象にがん教育教室を行いました。

宮城県教育庁保健体育安全課やアフラック株式会社様に御支援いただき、外部講師として、がん対策推進企業アクション アドバイザリーボードメンバーの阿南里恵さんに御講話いただきました。

がんがどのような病気であるか、また、阿南さんががんを患った時の体験談を伺いました。

「がん」という病気を知る

がんになるメカニズム、治療や予防方法、早期発見の必要性について学びました。

がん細胞は、健康な人でも1日1000個以上作られるため、誰でもがんになる可能性があります。がん教育教室前に行った事前アンケートでは、「がんは治らない病気」というイメージを持つ生徒が多くいました。しかし、がんを罹患しても約6割が、早期発見だと約9割が治癒するという事を学び、検診に行く大切さを改めて理解することができました。



がんを経験された阿南さんのお話を伺う

阿南さんは23歳の時にがんが見つかりました。その時期、仕事に意欲的で、恋愛やおしゃれを楽しんでいたという阿南さんにとって、がんの診断はとても辛いものだったそうです。がんになったことで色々なことを諦めなければならず、後遺症に今もお苦しんでいらっしゃいます。しかし、「自分の人生を諦めたくない!」と海外に語学留学をし、日本とは異なる価値観に触れたことが人生の大きな転機になったとのことでした。

自分の命も他人の命も大切にすること、辛いときには周りに SOS を出して良いということ、また、「幸せ」を人と比較せず、自分自身の幸せに自分で気付くことが大切、というお話をいただきました。

生徒たちからは、「がんはいつ、誰がなってもおかしくないということを忘れず、毎日大切に過ごしたい。」「早期発見の大切さを周りの人にも伝えて、大人になったら検診に行くようにしたい。」「阿南さんの行動力はすごいと思った。阿南さんのように『自分の幸せ』を大切に生きていきたい。」との感想がありました。

